

地域連携 News

Japanese Red Cross Otsu Hospital



当院の小児外科のご紹介

ごあいさつ

本年4月に着任しました。現在もスタッフは私一人ですが、小児科・新生児科・外科・麻酔科・産科など各科に協力いただき、これまでと同様に滋賀県内の小児外科疾患のこどもを受け入れて参る所存です。これからも地域の病院や開業医の先生方のご協力を仰ぎ、県内の小児医療並びに周産期医療の一層の充実に向けて微力ながら力を尽くして参りますので、よろしくお願い申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大により、こどもたちを取り巻く環境が大きく変わり、かかりつけ医として日々、患者さんやご家族と接する先生方もこの大きな変化にご苦労されておられると思います。最も患者さんと近いかかりつけの先生方からの情報は大変重要です。地域連携を通じての情報提供にとどまらず、直接のご質問・ご連絡も受け付けておりますのでよろしくお願い申し上げます。

特色

新生児から中学生までのこども(小児外科疾患を有する成人も含まます)の外科疾患です。

具体的には①小児一般外科:鼠径ヘルニアや急性虫垂炎などの日常的な外科疾患。

②新生児外科疾患:先天性食道閉鎖症や横隔膜ヘルニア、鎖肛など、生まれつき消化管や呼吸器に異常がある新生児疾患。③小児固形腫瘍:神経芽腫や

肝芽腫、卵巣腫瘍など、主に胸や腹部にできる悪性腫瘍です。

近年、小児外科領域でも鏡視下手術が普及してきており、当院でも前任者から鏡視下手術を積極的に導入しております。将来を担う子どもたちにより安全で体の負担が少ない手術術式を考慮し、それ以後の人生の質を高く、健やかにすごせるような医療を提供することを目指しています。

また、難治症例は京都大学小児外科と連携し、より専門的な医療が提供できるように対処しています。

小児外科部 副部長

やまだ ひろと

山田 弘人



※写真撮影時のみマスクを外しています。

プロフィール

卒 年:平成 12 年

専門資格:日本外科学会外科専門医

日本小児外科学会小児外科専門医

専門分野:新生児外科、小児内視鏡外科、小児外科全般



●お知らせ「外来診察室が3階小児科へ」

患者さん・ご家族からの要望もあり、令和3年7月20日から、外来診察室が3階の小児外来ブースへと移動し、火曜日(全日)、木曜日(午後)に変更となります。小児外科疾患は緊急症例が多いことも特徴の一つです。当院では小児科・新生児科と連携し、夜間や休日でも患者さんを受け入れ、手術可能な体制を整えていますので、曜日を問わずご連絡ください。

	月	火	水	木	金
午前		山田			
午後		山田		山田	

topics

一次脳卒中センター(PSC:Primary Stroke Center) コア施設に認定



日本脳卒中学会は脳卒中診療を24時間365日行える施設を「一次脳卒中センター(PSC)」として認定しており、当院では2019年9月1日より認定を受けています。この度、機械的血栓回収療法の実施体制調査や診療実績から「地域においてコアとなるPSC施設」として活動するよう同学会から委嘱されましたので、質の高い高度な医療を提供し地域の中核となる脳卒中センターとして活動していきます。

一次脳卒中センター(PSC)

1. 地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医が患者搬送後可及的速やかに診療(rt-PA静注療法を含む)を開始できる。
2. 頭部CTまたはMRI検査、一般血液検査と凝固学的検査、心電図検査が施行可能である。
3. 脳卒中ユニット(SU)を有する。
4. 脳卒中診療に従事する医師が24時間体制で勤務している。
5. 脳卒中専門医1名以上の常勤医がいる。
6. 脳神経外科的処置が必要な場合、迅速に脳神経外科医が対応できる体制がある。
7. 機械的血栓回収療法が実施できることが望ましい。実施できない場合には血栓回収脳卒中センターや包括的脳卒中センターとの間で、機械的血栓回収療法の適応となる患者の緊急転送に関する手順書を有する。
8. 定期的な臨床指標取得による脳卒中医療の質をコントロールする。



《お問い合わせ》

日本赤十字社 大津赤十字病院 地域医療連携課

〒520-8511 滋賀県大津市長等一丁目1番35号

TEL.077-522-8535(直通) FAX.077-522-4385(直通)

予約受付 月曜日から金曜日(平日) 午前8時30分から午後8時00分まで
土曜日 午前9時00分から午後1時00分まで

QRコードからホームページが
ご覧いただけます

<https://www.otsu.jrc.or.jp/>

